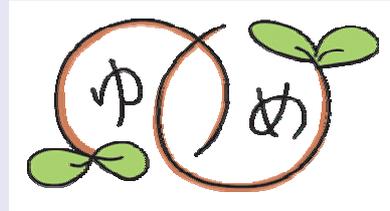


ゆめ通信



「ゆめ」の由来…結芽ゆめ「二つの芽を結ぶ場所」+ 夢ゆめ + 遊眼ゆめ「遊び心の視点を持つ眼」



松本大学



相談や...



掲示など...



ある一日

リニューアルしました！ ~ 考房からご挨拶 ~

地域づくり考房「ゆめ」は、学生への教育を目的に、授業で学んだ知識や技術を地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

授業で学んだ内容をさらに広げ、地域社会の中で生きた学習活動を地域の方々と一緒に進んで行く、学生主体の活動への支援を行っています。

活動を通して、アルバイトなどでは得られない他者に対する「深い理解」と「信頼関係」が育まれます。また、社会のさまざまな課題と向き合う中でその解決にむけ実践することで、その後の生き方に響くような学習ができます。さらに、地域づくりの担い手(社会の一員)としての自覚と自信が生まれます。

他者と社会を知ることによって、自己を相対化して理解することができ、社会の中に自分の存在価値を見つける自己理解は、学生たちの自己肯定感を高めるとともに、建設的な社会参加の姿勢を育ててくれます。

この考房は、今学んでいる学術的な専門の学びを社会にどう生かしていくかの学びの場です。学びをさらに発展させ、社会課題の解決に向けた取り組みの意義づけや検証、データを科学的に出し、担当教員と連携して研究を行うことができます。

この8月より『ながのコミュニティ・ビジネス支援センター』を改め、上記の目的にそって、『地域づくり考房“ゆめ”』と名称変更しました。

考房の愛称である「ゆめ」には、学びの「芽」を地域での活動に「結」んでいく「結芽(ゆめ)」と「夢」そして、活動の中でも「遊」び心の視点を持つ「眼」という「遊眼(ゆめ)」、3つの意味がこめられています。  
(文責:福島)

Topics

リニューアルしました  
~ 考房からご挨拶 ~

特集！  
考房ってどんな所？  
~ 考房の事業紹介 ~

インフォメーション  
~ 考房内外  
各種イベントやスタッフ募集の  
お知らせです ~

編集後記

納得の支援



見える支援



# 想いをカタチに

確かな支援



新たな出会いの場  
自己実現の場  
活動の広がりの場

## 地域づくり考房『ゆめ』ってどんなところ？

### 想いをカタチに変えていくところです

学校内外、世代を超えてたくさんの人と出会い、楽しくふれあいながら、想いをカタチに変えていくところです。

- \* みんなにやさしい地域づくりを考えるところ
- \* 何かしたいと思っている人を支援するところ
- \* 学生・地域・教職員がつながるところ
- \* 情報を集め、発信するところ
- \* 講座・研修会・つどいに参加できるところ
- \* みんなで自由に自主的に交流するところ

自分の好きなことや特技を活かして、また一人ひとりの興味・関心事や問題を起点として、ともに考え合いながら、「自分のできること」で行動していきます。

### 地域のネットワークの中で活動しています

地域づくり考房では、地域と連携しながら、様々な活動を応援していきます。

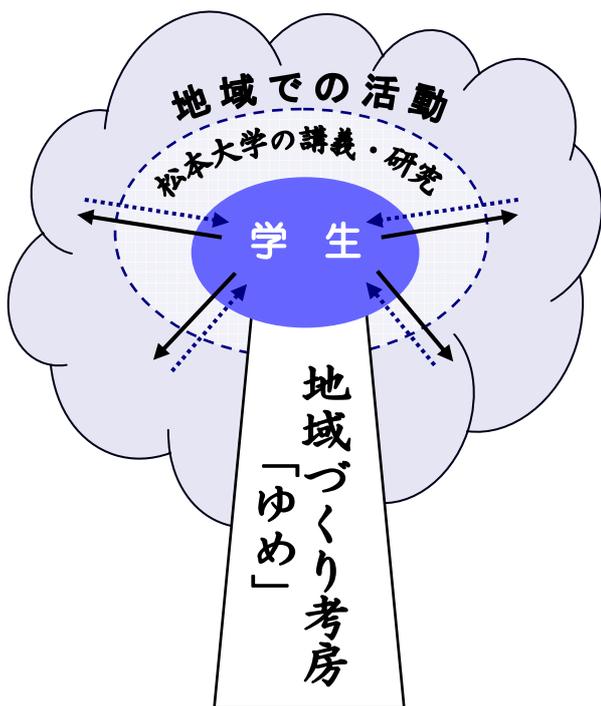
### どなたでも利用できます

何か楽しいことを探している人、自分の生活を生き生きとさせたい人、課題を何とかしたいと考えている人、社会貢献を考えている人、友達を見つけない人…などなど、どなたでも利用できます。

場所は、松本大学2号館2階、南側の部屋です。

平日の月曜日から金曜日、10:30～18:30まで開放しています。ぜひお気軽にお越しください。

## 地域づくり考房『ゆめ』のめざすもの



## ミッション

地域づくりの活動を通して  
学生の「地域人」教育を進める  
大学における学問と、  
「地域人」教育とを結びつける  
大学の社会貢献を推進するとともに、  
大学の価値を高める

## ミッション達成のための具体的目標

- \* 教育的観点をもって学生の活動を推進する
- \* 学生たちの創造性・自主性・主体性を重視した活動を支援する
- \* アカデミックな学問と活動を結びつける
- \* 関連科目を支援する
- \* 学生の想いと地域の想いを対等につなぎ、地域と協働した活動に向け総合的に支援する
- \* 市民としての生き方を学ぶ機会を提供し、地域と協働した活動を支援する
- \* 研究機関として活動をサポートする
- \* 教職員と連携しながら、学生の活動を推進する

## 考房ってなにしてるの？

「地域づくり考房って、いったい何しているところなのか良く分からない・・・。」

・・・と思っている人が多いのではないのでしょうか。

考房ではさまざまな事業活動の「支援」をしています。

事業は学生が企画したものや、地域から発信された企画を学生が受け取ったもの、企業と一緒に企画を進めるものなど、そのきっかけは様々です。

しかし、気持ちを目に見える形にしようという思いはどの事業にも共通しています。そして、きっかけをカタチにするという想いを実現するお手伝いをするのがこの考房です。

活動をするときには、みんなで話し合う場所が要ります。通信・情報収集の手段も必要です。相談したり、一休みする時間も必要です。考房はそんな『必要』を引き受ける、そんな場所でありたいと思うのです。

### 「でも具体的に何をしているの？」

そこで、この『ゆめ通信』創刊号では、考房を活用しながら事業に携わる学生の方10名に、それぞれの事業内容を紹介してもらうことにしました。学生の方に3つの質問をして、それぞれの事業に迫ってみたいと思います。

考房では、こんな事業をしている皆さんを支援しています。「自分でもこんなことがしてみたい！」と思ったら、ぜひ、考房に遊びに来てください。

## 活動紹介

### 記事の読み方

#### 事業・プロジェクト名 事業概要

地域づくり考房『ゆめ』で、事業にかかわっている学生の方に、事業ごとに3つの質問をしました。記事では質問が省略されています。質問は以下のとおりです。

- この事業・プロジェクトに出会ったきっかけは？
  - 事業をしている中で最もインパクト（衝撃）を受けたことは？
  - 事業があなたの生き様や人生に与えた影響は？
- なお「インタビューからのコメント」となっています。

#### 柿とりプロジェクト 柿とりを通じて新村地域の方々と交流

実家でいじちゃんが柿の収穫などをやっていたので、学校の周辺地域で、柿がなっていないも採っていないのは高齢化のせいもあるからかなと思って。

ちょうど『社会活動』という講義での活動を探していた時期だったので、柿採りをしようと思いました。

「柿を採ります」と、公民館に呼びかけたら結構「採ってほしい」という声が多くて嬉しかったです。それに（収穫した柿の）加工に困ったとき、婦人会の人たちが協力的だったことも嬉しかったです。

地域に提案してみると、学生が想像しているよりも、いろんな人が動いてくれます。柿採りも案外すんなり活動が成り立ちました。まさかここまで大きくなるとは思っていませんでした。この先どうなるか、不安はありますが...（笑）。

インタビューのお相手：田中慎一さん（総合経営学部3年）



新村婦人会の人と一緒にジャム作り

#### 山形村ぼぼネット企画 むかごちゃんプロジェクト 捨てるむかごを収穫・販売。 利益は地域福祉の推進と協力者への配当に

山形村ボランティアセンターで、地元ボランティアの支援に関わっていたのがきっかけです。ボランティア支援が一段落ついたので、何か具体的な活動しようという気運が高まり、捨てられてしまうむかごの販売プロジェクトが発足しました。

「事業の報酬制度を考えてほしい」と頼まれた事ですね。

報酬制度とは？

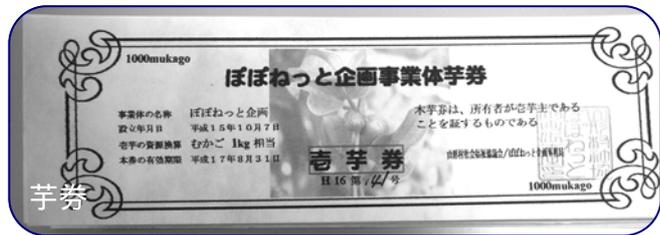
株式制度ならぬ「芋式制度」と呼ばれる制度です。むかごの販売事業を手伝った人には芋券が発行され、期末の芋主総会で利益から配当価格が決まります。もっとも、事業が赤字ならば芋券は紙切れになってしまいますが・・・この報酬制度は、担当の方から原案をお聞きした直後に「それを固めてくれ」と頼まれたものですから、当時はとても驚きましたね。

自分達のやりたいことをビジネス（正確にはコミュニティビジネス）にする事例を見たことです。また、シンポジウムや学会など、公の場でむかごちゃんプロジェクトを説明しましたので、プレゼンテーション能力も大幅に上がりましたね。

インタビューのお相手：一色智成さん（総合経営学部4年）



むかごを分別する住民と学生



## 朝日村IT化支援プロジェクト

朝日村における「ITを使つての情報発信」のさらなる普及のため、学生によるホームページ作成を通じての仲間作り事業

林先生に声をかけられたのがきっかけです。どんな経緯で声をかけられたのですか？  
シスアドの資格を持っていましたので、また、本学の講義「NPO」でも話題になっていたため、興味を持ちました。  
HPの講習会に80歳近いおばあちゃんに来ていたのが印象的でした。  
平均年齢はどのくらいなんですか？  
平均50才くらいですね。  
そうですね。ものを教えるってことが結構楽しいことかなと思いました。人間層の幅の広い人に教えることは難しいですけど、試行錯誤するというのも良かったなと感じています。  
アシスタントとして事業をされていた時と、責任者としてされていた時とあるのですよね？その違いは何かありましたか？  
うーん。責任者としてやっていたときは、アシストしてくれた学生の方に助けられたことが多かったですね。

### マンツーマンでのHP作成講座



インタビューのお相手：一ノ瀬幸治さん(総合経営学部4年)

## 「わたしが主役のまちづくり」モデル地区実践活動事業 豊科のまちづくり 自分たちの地域の課題を住民総参加で解決することにより 「私が主役のまちづくり」実践を図る事業。豊科はそのモデル地区の一つ

### ワークショップでアイデアを出す



白戸先生と、高橋先生に誘われました。自分が興味を持っていた分野だったこともあったので、参加させていただきました。どのあたりに興味があるのですか？

自分の住んでる身近な町っていうのと、(生活のうえで)自分に突き当たる部分があること、あとまちづくりのゼミにも所属しているので興味がありました。

いろいろな方と話す機会があって、そこで相手に自分の意見をきちんと聞いてもらえたことに感動しましたし、相手の話を聞くことの大切さを改めて思いました。

いろいろな方というと？

親の年代の人とか、普段はあまり話をしない方々ですね。自分では思いもよらなかった意見も出ますので、話を聞いているだけで面白かったです。

活動を通じた結果知り合いが増えたり、人同士の輪が大切なこと、人は一人で生きていける訳じゃないって言うのを改めて教えてもらいました。志を持つ仲間と一緒にやるのは楽しいです。まちづくりって言うとなんだか大変ですけど…

いや、楽しいですよ。豊科は楽しい(笑)。

インタビューのお相手：堀金浩明さん(総合経営学部4年)

## 住民向けパソコン講座 ものぐさパソコン教室

新村・和田地区の地域の方々を対象に  
コミュニティ・ビジネスとして有償のパソコン講座を企画・運営・実施

まず、学生で有償活動をやりたいと考えていました。一方で5年近く前から新村の方々に『パソコン教室をやってほしい』と頼まれており、それらを同時に解決しようと思いました。また、地域づくり考房「ゆめ」がこうした学生企画を起業する受け皿になってくれたことも大きいですね。

第一に、普通のパソコン教室では、講義についていけないと置いていかれてしまいますが、ものぐさパソコン教室ではそれをフォローしてくれるのでとても助かる、と言われたことが印象的でした。しかし一方で、有償にした弊害というべきでしょうか…こうした活動が、新しく参加する学生に単純な「アルバイト」と捉えられかねなくなった側面もあり、反省しています。

「お金の扱い」に関する影響が大きいですね。赤字や人件費の問題に加え、非営利活動が営利活動にすり替わる怖さも感じました。更には、受講料に見合う講座にしなければならぬプレッシャーもあります。しかし一方で、他の学生と分業できたことには救われました。総括すると、有意義な経営経験をさせて頂けたと思います。インタビューのお相手：一色智成さん(総合経営学部4年)

### 学生アシスタントが一人ひとりをしっかりサポートします



## 災害救援ボランティア活動

平成16年10月23日の中越地震による被災地の復興支援活動をきっかけに活動中

友達と一緒に講義「社会活動」の一環で参加しました。他にもきっかけがありましたか？  
自分が小5の時に水害で避難した経験や、兵庫の高校生が家にいる時に、阪神大震災で生徒がパニックに陥る姿を見たり、話を聞いた経験なども影響しています。

兵庫の高校生が、なぜ家にいたのですか？

あ、実家が旅館で修学旅行の学生が宿泊していたので...普段から関西の方の利用が多く、震災時には色々と話を聞いていて、自分にも何かできることはないかなと感じていました。

震災から1ヶ月半くらい経っていた12月中旬に、仲間川口町に復興支援に行った時、現地のおばあちゃんが向こうから『今日やっと外に出れた』って話しかけてくれて、『なんで？』って聞いたら『今まで、もう（精神的に病んでしまって）外に出ることも、人と話すこともできなかった』と泣きながら話してくれました。地震って、建物などの被害もあるけれど、人の精神的被害があるんだと知り、ショックでした。

（活動の中で撮影した）ビデオを、在学中に自分の地元小谷の役場に持って行って、現場の状況を見てもらいたいです。災害に関する問題提起・防災対策を考えるきっかけにして欲しいで

す。少しでも地域の役に立てたらと思います。

インタビューのお相手:石田健さん(総合経営学部3年)

平成17年6月22日 新潟県中越元気村にて支援活動



## ウィメンズサポート

松本市周辺で、地域住民と協働であらゆるものと共生することを目指し、孤立無援になりがちな女性の支援事業

いままで、松本市の福祉の現場でいろいろなネットワークを組みつつ仕事をしてきたのです

が、その中で、金銭的にも労働条件的にも恵まれていない、でも、がんばっている女性たちを多く見てきました。そんな女性たちが元気になる交流の『場』を作りたいと思っていたんです。これまでその繋がりの中で知り合った仲間と勉強会をしたりしていました。

ーウィメンズサポートの基盤はあったんですね。

ええ。NPOの勉強のために大学に入って、3年次に仮想のNPOを作るという授業があって、その時にこの構想を提出したんです。そうしたら先生が「これはぜひ実際にやるべきだ」と背中を押して下さって、ウィメンズサポートという事業が立ち上がりました。今年に入っているいろいろな講座を開催しています。

メンバーの一人が子育て支援講座のイベントをしたことがあって、そのときにある団体から、助成金をいただくという約束をしたんです。ところがイベントが終わったら『払わない』と言われ、主催のメンバーの方はかなりショックだったようです。口約束だったからなんとでもできませんでした。でも、それも一つの勉強でした。お金のことはきちんと形に残して約束することの必要性を学びました。

来年卒業なのですが、卒業後やりたいことがはっきりしてきました。この大学を基点に、悩んでいる女性たちの元気を補給する場を広げたいと考えています。月に一度くらい講習や勉強会などをして、その後みんなで話をする場を設けて、元気になってもらいたいです。ゆくゆくはその中から立ち立って女性起業家になる人も出ると思います。そして、「松本大学で勉強会をしている女性たちってすばらしいよね」って言われるようなブランド化を目指したいと思います。

インタビューのお相手:六井洋子さん(総合経営学部4年)

## 着付け教室

地域の方々のたんすに眠っている着物を借りて、自分で着付けられ、また着せてあげられるようになる

一年の文化祭に、部活で着物を着せてもらった時に『自分でも着られたらいいなあ』と思っていました。その時は着付けは？

まったく出来なかったです。着付けを習いに行くにも通うのに不便で...どこかに地域交流という考えもあったし、それで着付けを事業としてできないかなと思って考案に相談をしたら、とんとん拍子に進みました。

うーん...着物って、着るときにたくさん紐を使うんです。補正のタオルを巻いたり...その紐が苦しかったですね(笑)。

事業にするときに声をかけてみたら、周りもやってみたかったっていうんですよ。だから事業という形にしてみてもよかったな、と思います。

事業として更にして行きたいことは何でしょうか？  
自分たちが着物を着るだけでなく、自分の国の文化を知って、それを外国の方や子供たちなど広く伝えていけたらいいし、そのための声掛けなども続けていきたいです。

インタビューのお相手:唐沢留実さん(短大商学部2年)



みんなきれいに着付けました

NPO法人「人に優しいまちづくり推進協会」ペロタクシー事業  
 「環境にやさしい」『地元の人、観光客の足として』企業が進める社会貢献活動に参画

MウイングでNPO学習会の講座があり、そこで「人に優しいまちづくり推進協会」代表の村瀬さんとお会いして、また大学でペロタクシー試乗会などを行なったのをきっかけに関わるようになりました。（自分自身）現場を体感するという点で、いくつかの地域との関わりはあったのですが、市街地地域とのかかわりは少なく、（市街地の）問題点といわれてもあまりピンとこないし、それを体感してみたかったこともあります。

インパクト？

あ、事業を通じての喜怒哀楽みたいな。

怒は、違法駐車が多いこと。

喜は、住民会議みたいなところで話を聞くより、そういうところに行かない、ごく普通の市民の生の声がキャッチできたことです。

橋渡し役ができるということですか？

そうですね。

（ドライバーをすることで）知らない人とでもコミュニケーションをとれる能力がついたし、今後に生かせるようになったと思う。また、バイトとか学生という肩書きを捨てて地域の一人として接していくことができたらと思います。

これから社会人になっても、地域とのかかわりを持ちながら行動していけたらと思っています。



環境にやさしいペロタクシー

インタビューのお相手：荻原大樹さん（総合経営学部4年）

松本一本ねぎプロジェクト  
 大学・生協・農協・地域が連帯した  
 『松本一本ねぎ』復興プロジェクト

食べる事が好きただけです、一言で言えば(笑)。流れとしては、2003年の8月に生協1階のラウンジで、JA松本の生活指導員の原さんと当時の松本市農協女性部の中田さんと、白戸先生が(松本一本ねぎプロジェクトについて)話していたところに通りかかったのがきっかけですね。

なるほど、「食べる事好きならどう？ やってみたい」という感じだったのですね(笑)

うーん、女性部の人たちの“力”ですね。

“力”というと例えば何ですか？

発想力や行動力やネットワーク。女性部の方々がとてもまとまっていたことですね。それに事業をやらされているっていうのではなく、生きがいとして自らやっている所にインパクトを受けましたね。

そうですね、仮説と実証かな。例えば、一本ねぎの商品を売った時に『このぐらい売れるかな』との予測に反して実際はあっという間に完売したことがありました。だから何でも実際にやってみないとわからない、ただ机の上で考えてるだけではなくて、自分の足で現地に行って目で見て行動しないと分からない、と強く感じます。

インタビューのお相手：田中康文さん（総合経営学部4年）



畑作り



マスコットキャラクター  
いっぽんくん

シニアネットパソコン講習会  
 シニアネットクラブのお年寄りの方と交流をしつつ、  
 パソコンについて知ってもらう

「社会活動」の授業の時間に地域の活動をしている方々のお話があって、その時に「シニアネット」の活動を知りました。

その団体から、地域づくり考房に（パソコン講習会の）依頼があり、ちょうど自分たちの授業のフィールドワークとタイミングが合い、仲間と事業を企画し始めました。

たくさんの方が集まってくれて、楽しくできたことですか。

たくさんというどのくらいですか？

メンバーは15～20人ぐらいです。

毎回の講習には大体10人前後の方が出席してくれます。

え、人生？

質問が大きすぎますか？まだ活動中でしょうけど お願いします。

難しいですね、これ。...シニアネットの皆さんと交流する中で、こういう活動をしていく上でのやり方とか（世代の違う）人との接し方とか、いろいろ知ることができて、今後の参考にになりました。

インタビューのお相手：瀧澤雄樹さん（総合経営学部4年）



シニアネットの方とパソコンで交流

今回は11事業の活動を紹介しました。今もたくさんの方が事業が芽を出しています。皆さんの想いを、地域づくり考房“ゆめ”はサポートしていきます。

**第二コムハウス 土曜日販売支援募集**

活動目的 コムハウスの喫茶開店1年記念の土曜日開催  
 対象 学生の方2~3人  
 活動内容 土曜日での販売・支援補助(デイスサービス含む)  
 日時 8月27日(土)10:00~14:30  
 場所 第二コムハウス  
 実施主体・連絡先 第二コムハウス / :40-3366 担当:宮崎

**すまいるキッズ ボランティア・スタッフ募集**

活動目的 夏休み中の小学生との交流  
 対象 子供の好きな方  
 活動内容 アルバイトとして1名/ ボランティアとして数名  
 時期 7月28・29日・8月1~12日(除く土日)17~19日  
 の場合は8:30~16:30  
 の場合は9:00~17:00の間で都合の良い1時間3時間ほど  
 場所 松本市梓川改善センター内 第2会議室  
 主催 すまいるキッズ  
 その他 時間給750円 将来保育・教育関係の職を考える方

**花田養護学校 外出ボランティア募集**

活動目的 花田養護学校『お出かけ学習』アシスト  
 対象 どなたでも  
 活動内容 養護学校中学部生の車椅子を押し、  
 校外学習へ同行しその補助をする  
 日時 9月9日(金)9:00(諏訪発)~15:00ごろまで  
 場所 グループ(4名):松本駅周辺での買い物や食事  
 グループ(3名):松本近辺の作業所見学・買物・食事  
 実施主体 花田養護学校  
 連絡先)同上 / :0266-28-3033 担当:牧島

**地域行政コース公開ゼミ 「仕事の意味」を問い直そう**

活動目的 新しい経済・地域のあり方を考える公開ゼミ  
 対象 どなたでも  
 活動内容 グループディスカッション・ワークショップなど  
 日時 8月8日(月)10:00~15:00  
 場所 松本大学5号館  
 実施主体 県男女共同参画センター・地域づくり考房“ゆめ”

**そば祭りスタッフ募集**

活動目的 そば店スタッフとして地域の方々との交流  
 対象者 店舗経営・接客に興味のある方 そばの好きな方  
 活動内容 そば店の接客、会計、運搬  
 日時)10月8日~10日(土~月)  
 活動場所 松本城周辺  
 連絡先 地域づくり考房“ゆめ”

**松本国際文化フェスティバルでのスタッフ募集**

活動目的 世界の人々と手を結び、地球家族を実感する  
 対象 学生スタッフ  
 活動内容 運営ボランティアおよび会場設営・ブース参加  
 時期 8月4日(木)~8月7日(日)  
 場所 信州スカイパーク  
 実施主体 松本国際文化フェスティバル実行委員会  
 連絡先 同上 / :0263-54-4340  
 その他 事前研修ができる方  
 期間中3日間以上参加できる方

**障害を持つ子供たちとのボランティア・アルバイト募集**

活動目的 障害を持つ子供のお父さん・お母さんの子育て  
 パワーの充電にみなさんのパワーを貸してはくれませんか。

内容 全4種

**その1:夏休みレスパイト(障害児の預かり)アルバイト募集**

内容 スタッフの指示・プログラムに従い、障害児の遊び  
 相手・身の回りの支援  
 日時 平成17年7月25日(月)~8月19日(金)9:00~16:00  
 土日および8/15・16は休み。毎日でも、数日でも可  
 場所 療育センターらいふ  
 その他 時給700円

**その2:遊び相手になってくれる男性募集**

内容 自閉症の男の子(小4、塩尻市在住)が家族でララ  
 松本(プール)にでかける時に同行して一緒に遊ぶ。  
 週末・長期休みなどに。頻度・日時は、お互いの相談。  
 その他 時給:600円~800円(応相談)  
 募集人数:1~2名

**その3:療育キャンプのボランティア募集**

内容 自閉症児の親の会主催、療育キャンプのボランティア  
 日時 平成17年8月6日(土)9:30~7日(日)14:00  
 場所 長野県松本青年の家 松本市島内  
 その他 事前交流会:7月10日(日)12:45~15:00  
 全て問合せは、松本圏域南部障害者総合支援センターWish  
 担当:中沢 / :0263-26-1313

**新村運動会 スタッフ募集**

活動目的 新村地区の住民が集い、  
 体力向上と明るい地域づくりを進める  
 対象者 運動の好きな人・人と交流したい人  
 活動内容 運動会運営スタッフ  
 日時 9月4日(日)7:00~ 雨天中止  
 場所 新村農民広場  
 連絡先)新村公民館 中村 :48-0375  
 実施主体 新村体育協会主催

**障害の方々とのバス旅行、介助ボランティア募集**

活動目的 旅行を通して障害のある方々とのふれあい交流  
 対象 男女各1名  
 活動内容 恵那ワンダーランドと簡保の宿恵那にて、  
 昼食・入浴などの介助  
 日時 8月7日(日)7:00~17:30  
 場所 恵那方面  
 実施主体・連絡先  
 山形村社会福祉協議会 / :0263-97-2102  
 その他 参加費2,000円 7月12日申込締切

**第二コムハウス 秋祭りボランティア募集**

活動目的 コムハウスの秋祭りを開催  
 対象 学生の方  
 活動内容 秋祭りの設営・販売・支援  
 ミニSL企画スタッフ  
 ステージ出演ボランティア  
 子供向けコーナー担当ボランティア ほか  
 日時 10月1日(土)10:00~14:30 前日準備14:00~  
 場所 第二コムハウス  
 実施主体・連絡先 第二コムハウス / :40-3366 担当:宮崎

**NPO体験**

活動目的 NPO体験をすることで、元気とその元気を続ける  
ヒントを見つける

対象 どなたでも

活動内容 NPO各団体へ行って活動体験をする

時期 7月～8月中 1日～2日程度参加

場所 団体により異なる

実施主体 塩尻市NPOネットワークおよび各団体

連絡先 事務局・ジョイフル/ :0263-51-9008

**ものぐさ大学「美術館めぐり」参加者募集**

対象 どなたでも

活動内容 絵本美術館・安曇野ちひろ美術館の見学など

日時 9月20日(火)9:00出発予定

場所 松本大学集合

実施主体 松本大学学生

その他 費用1,500円 8:50までに大学ロータリーへ集合

**「社会活動」公開プレゼン**

活動目的 学生が取り組んできた活動から社会を考える

対象 どなたでも

活動内容 実施活動のプレゼン

日時 平成17年9月13日(火)13:00～16:30

場所 松本大学514教室

実施主体 松本大学

**「ながネット祭り」企画運営スタッフボランティア募集**

活動目的 不登校の子供たちの心を知り協同して企画  
運営をする

対象 実行委員会に参加・企画段階から関わって下さる方

活動内容 ながネット祭り企画・運営と当日の会場設営・運営

日時 9月18日(日)8:30～17:00

9月4日11:00～15:00実行委員会開催

場所 松本大学構内(1号館・2号館・中庭など)

実行委員会は田川公民館にて開催

実施主体 長野フリースクール・親の会ネットワーク

**「ながネット祭り」当日ボランティア募集**

活動目的 不登校の子供たちの心を知り運営をサポートする

対象 やる気のある方などなたでも

活動内容 ながネット祭り当日・前日の会場設営・運営など

時期 9月18日(日)8:30～17:00 前日会場設営あり

場所 松本大学構内(1号館・2号館・中庭など)

実施主体 長野フリースクール・親の会ネットワーク『ながネット』

**地域生活ふれあい事業『希望の旅』 企画スタッフ募集**

活動目的 外出の機会の少ない障害者(児)の方を対象  
に、一泊旅行を企画し、心身のリフレッシュを図る為の支援  
を行う

対象者 観光または障害者福祉に関心のある学生

活動内容 誰もが楽しめる一泊旅行の企画・運営をする

時期 平成17年11月

場所 長野県または近隣県

実施主体 山形村社会福祉協議会

(連絡先) 同上/ :0263-97-2102

その他 日程・内容など詳細はスタッフ会議で決定

**中信精神障害者地域生活センター ボランティア募集**

活動目的 「燦々クラブ」における日・祝日の開所要請へ対応

対象) 精神福祉ボランティア要請講座修了者

精神保健福祉に関心のある方

活動内容 日祝開所時の施設管理、利用者のお話・相談の相手

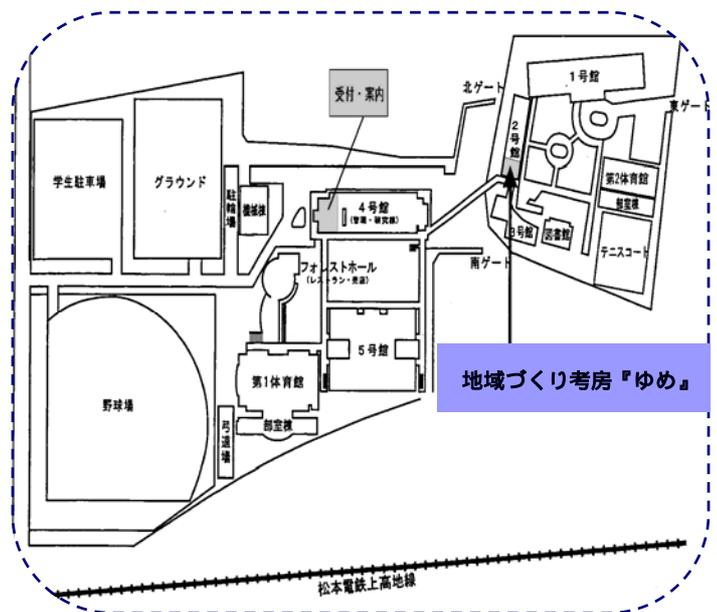
日時 日曜・祝日の 19:00～12:00または 12:00～15:00

場所 城西病院「燦(さん)メンタルクラブ」

実施主体・連絡 同上/ :0263-39-4624(4625)

その他 平日ボランティアも募集しています。

〔キャンパス案内図〕



**編集後記**

お忙しい中、インタビューにお答え頂いた皆さん、  
写真の貸与などに快く応じてくださった皆さん、紙面  
のチェックをして下さった皆さん、たくさんの皆さん  
のおかげで創刊号が発行できました。本当にありが  
とうございました。

考房の存在や考房での事業について、これを読んで  
くださった皆さんが知るきっかけになれば嬉しいです。  
“ゆめ通信” 今後どうぞよろしくお願ひします。

インフォメーションへの問い合せ “ゆめ通信”へのご意見・質問など、  
すべて下記へお願い致します。



**松本大学 地域づくり考房『ゆめ』**

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1  
Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200(代表)  
Fax: 0263-48-7290  
E-mail: community@matsu.ac.jp